

スポーツ振興計画作成のための調査 (2) — 愛媛県今治市の場合 —

(保健体育研究室) 堺 賢 治
(保健体育研究室) 藤 原 誠
(教育学研究科保健体育専修) 白 石 有 加

A survey for making sports promotion plan (2) — The case of Imabari city, Ehime —

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA *and* Yuka SHIRAIISHI

(平成 21 年 6 月 5 日受理)

I. 序論

愛媛県は2017年(平成29年)国民体育大会(以下、国体という。)を開催する。そのため、愛媛県は2003年に「愛媛県スポーツ振興計画—スポーツ立県えひめ2017—」¹⁾を策定した。そして、2006年、国体に向けて愛媛県競技力向上対策部会を立ち上げた。しかしながら、その内容は、以前の国体開催県の成功の事例をまねたにすぎない。折しも日本は2008年に始まったサブプライムローンのために未曾有の不況に突入し、国や県は財政的に苦しい状況に追い込まれている。このような状況の中で、愛媛県で国体に200億円の予算を使うことが許されるであろうか。そのようなお金があれば医療や福祉に使うべきであるという声も上がって来るであろう。

また、愛媛県は国体で優勝することを目的に様々な強化の計画を立てている。しかし、国体に優勝することよりもっと大切なことがある。それはスポーツ人口が増加し、国体後も良い成績を残すことである。このことを実現するためには、スポーツ人口を増加させながら良い選手を育てることである。別の言葉で言うと、スポーツの大衆化と高度化の統合である。加えて、愛媛県では近年愛媛FCや愛媛マンダリンパイレーツのようなプロスポーツが盛んである。これらのことをまとめるためには知事部局や市長部局直属のスポーツ振興部局を作る必要がある。さらに、上記のことを結びつけるために、全てに関わる総合型地域スポーツクラブづくりが必要となって来るであろう。そして、愛媛県下の市や町がしっ

かりしたスポーツ振興計画作る必要があろう²⁾。

そこで、本研究は上記のことを実現するために、愛媛県今治市を対象に、第一に、市のスポーツの実態を把握し、第二に、きちんとしたスポーツ振興計画作ることを目的にした。

II. 調査方法

- (1) 対象：今治市の20歳代～70歳未満の住民3,000名
- (2) 期日：2009年9月
- (3) 方法：質問紙による郵送調査
- (4) 回収率：有効回収数 1,424部
有効回収率 47.4%
- (5) 分析の視点

- ①性別：男性 (N=609 42.7%)
女性 (N=815 57.3%)

②クラブ加入意欲別

総合型地域スポーツクラブへの加入希望の有無によって、「加入したい」と「誘われれば加入したい」人を「積極群」とし、「あまり加入したくない」や「加入したくない」人を「消極群」とした。(表1)

表1 総合型地域スポーツクラブ加入希望の有無

項 目	N	%	
加入したい	233	16.4	積極群
誘われれば加入したい	696	48.9	
あまり加入したくない	349	24.5	消極群
加入したくない	135	9.5	

Ⅲ. 結果及び考察

1. スポーツ活動

(1) 運動やスポーツの好き嫌い

表2は運動やスポーツの好き嫌いを示したものである。全体では、「自分でやるのも見るのも好き」や「どちらかといえば自分でするのも好き」と回答した人は58.0%であり、愛媛が2003年に実施した調査¹⁾の49.2%に比べると自分でやる人が多い。また、「どちらかといえば見る方が好き」な人を含めると95.6%となっており、大多数の市民が運動やスポーツに対し好意的である。性別で比較すると、男性では、「自分でやるのも見るのも好き」な人が多く、女性では、「どちらかといえば見る方が好き」な人が多い。

加入意欲別では、積極群に「じぶんでやるのも見るのも好き」な人が多く、消極群に「どちらかといえば見る方が好き」な人が多い。

表2 スポーツの好き嫌い (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
自分でやるのも見るのも好き	49.1	39.6	52.8	25.8	43.6
どちらかといえば自分でやる方が好き	15.3	13.7	14.1	15.1	14.4
どちらかといえば見る方が好き	32.8	41.2	30.9	50.6	37.6
自分でやるのも見るのも嫌い	2.3	5.3	1.9	8.1	4.0
無回答	0.5	0.2	0.3	0.4	0.4

P<0.001 P<0.001

(2) 実施種目

表3は過去1年間に行ったスポーツ種目について示したものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が39.9%と最も多くなっており、次いで「軽い体操」の14.2%、「水泳」の6.7%、「ゴルフ」の6.0%、「ボーリング」の5.8%と続いている。個人で簡単にできる「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」を多くの人が実施していることがわかる。性別で比較すると、男性では、「ソフトボール」や「ゴルフ」が多く、女性では、「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」が多い。

加入意欲別では、あまり差はみられない。

表3 過去1年間のスポーツ実施種目 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
散歩・ウォーキング	31.7	46.0	40.8	38.0	39.9
軽い体操	9.2	17.9	15.0	12.6	14.2
水泳	6.9	6.5	8.2	3.9	6.7
ゴルフ	12.8	0.9	7.2	3.7	6.0
ボーリング	7.2	4.7	6.2	5.0	5.8
ジョギング	7.4	2.8	5.3	3.9	4.8
ソフトボール	10.3	0.6	5.0	4.5	4.8
ソフトバレー	2.0	6.0	5.4	2.1	4.3
テニス・ソフトテニス	5.4	3.2	5.3	2.1	4.1
卓球	3.8	3.7	4.5	2.3	3.7
ハイキング	3.9	2.6	3.2	2.9	3.2
バレーボール	0.8	4.8	3.6	2.1	3.1
その他	26.9	28.6	31.2	21.3	27.9

(2つまで○印)

(3) 実施頻度

表4は過去1年間のスポーツ実施頻度を示したものである。全体では、週1回以上定期的にスポーツを行っている人は38.4%であり、全国平均の38.5%³⁾とほとんど変わらない。性別にみると、男性では34.7%、女性では41.4%と女性の方が高い。一方、行っていない人を見ると、男性では26.4%、女性では30.5%と女性の方が行っていない人が多く、女性に二極化現象が起きている。

加入意欲別に比べると、週1回以上スポーツを行っている人は、積極群では44.0%、消極群では28.7%であり、総合型地域スポーツクラブ加入に積極的である人ほど、日頃から定期的にスポーツを行っているといえる。

表4 過去1年間のスポーツ実施頻度 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
週に3回以上	11.5	15.6	15.8	9.9	13.8
週に1~2回	23.2	25.8	28.2	18.2	24.6
月に1~2回	20.9	11.4	17.9	11.2	15.4
年に数回	17.7	16.2	17.4	15.3	16.9
行っていない	26.4	30.5	20.6	44.4	28.9
無回答	0.3	0.5	0.1	1.0	0.4

P<0.001 P<0.001

(4) 実施場所

表5は過去1年間のスポーツ実施場所をあらわしたものである。全体では、「公共スポーツ施設」が26.9%と最も多く、ついで、「道路」の18.5%、「学校の体育施

設」の12.3%、「商業スポーツ施設」の11.9%の順である。性別で比較すると、あまり差はみられない。

加入意欲別に比べると、スポーツ実施頻度の高い積極群の方がすべての項目において高い数字を示している。特に、公共スポーツ施設や学校体育施設において高い割合を示している。

表5 過去1年間のスポーツ実施場所 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
公共スポーツ施設（学校を除く）	28.4	25.8	32.3	16.5	26.9
道路	16.1	20.2	19.4	16.3	18.5
学校体育施設	12.6	12.0	15.1	7.0	12.3
商業スポーツ施設	15.4	9.2	13.9	8.3	11.9
野外（海・山・川）	14.6	7.5	10.9	10.1	10.5
公園・空き地	12.5	6.7	10.0	7.6	9.2
自宅	5.6	11.0	9.7	7.0	8.7
職場のスポーツ施設	2.3	0.4	1.0	1.7	1.2
その他	2.3	3.3	3.2	2.1	2.9
無回答	1.1	0.9	0.8	1.4	1.0

（2つまで○印）

（5）今後のスポーツ活動

表6は今後行いたいスポーツ種目についてあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が28.9%と最も多く、次いで、「軽い体操」の16.9%、「水泳」の12.6%、「ヨガ」の12.2%、「テニス・ソフトテニス」の8.3%、「ハイキング」の7.7%、「卓球」の7.2%、「ジョギング」の6.8%、「バドミントン」の6.2%、「ゴルフ」の6.0%が続いている。健康づくり系の運動と個人で行うスポーツが多い。性別にみると、男性では、「散歩・ウォーキング」の27.6%、「ゴルフ」の11.2%、「水泳」の10.8%、「ジョギング」の10.2%が多く。女性では、「散歩・ウォーキング」の29.9%、「ヨガ」の19.4%、「軽い体操」の19.0%、「水泳」の14.0%が多い。

加入意欲別に比べると、積極群の人は、「水泳」や「ヨガ」の割合が高く、消極群の人は「散歩・ウォーキング」の割合が高い。

表6 今後行なってみよう種目 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
散歩・ウォーキング	27.6	29.9	25.3	36.0	28.9
軽い体操	9.5	19.0	14.2	16.5	15.0
水泳	10.8	14.0	15.6	7.2	12.6
ヨガ	2.6	19.4	14.5	7.4	12.2
テニス・ソフトテニス	8.7	8.0	9.6	5.6	8.3
ハイキング	9.2	6.6	7.4	8.5	7.7
卓球	5.7	8.2	7.4	6.2	7.2
ジョギング	10.2	4.3	6.4	7.9	6.8
バドミントン	4.1	7.7	6.9	5.0	6.2
ゴルフ	11.2	2.2	7.0	4.3	6.0
ボーリング	7.6	4.4	6.5	4.5	5.8
太極拳	3.9	6.3	6.4	2.9	5.3
ダンス	0.7	7.9	5.6	2.9	4.8
スキー・スノーボード	5.6	3.7	3.9	5.8	4.5
エアロビクス	0.3	7.5	4.8	3.7	4.4
ソフトボール	7.4	1.3	4.4	3.1	3.9
その他	35.0	18.4	30.4	16.1	25.5
行いたくない	5.3	3.7	1.0	11.0	4.4

（2つまで○印）

2. 総合型地域スポーツクラブ

（1）入会条件

表7は今治市に総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どのような条件がととのえば会費を出して入会してもよいかをたずねたものである。全体では、「自分のレベルにあった運動が出来る」が55.5%と最も多く、次いで、「安い値段でスポーツが出来る」の52.5%、「健康をチェックしてもらえる」の36.8%、「一緒に活動する仲間がいる」の25.6%、「初心者向けのスポーツ教室がある」25.0%、「いつでもスポーツができる」の24.9%、「いろいろなスポーツができる」の23.9%、「専門的な知識をもった指導者がいる」の23.2%となっている。性別で比較すると、差はあまりみられない。

加入意欲別にみると、どの項目においても積極群の人が多く、多様なニーズを持っているように思われる。その中でも特に差がみられた項目は、「安い値段でスポーツができる」「自分のレベルにあった運動ができる」「専門的な知識を持った指導者がいる」「いろいろなスポーツが出来る」があげられる。

表7 総合型地域スポーツクラブへの入会条件 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
自分のレベルにあった運動ができる	52.2	58.0	60.3	45.9	55.5
安い値段でスポーツができる	45.8	57.5	59.4	39.0	52.5
健康をチェックしてもらえる	36.8	36.8	40.0	30.6	36.8
一緒に活動する仲間がいる	26.1	25.3	29.7	17.4	25.6
初心者向けのスポーツ教室がある	18.6	29.8	27.2	20.9	25.0
いつでもスポーツができる	25.5	24.5	28.7	17.4	24.9
いろいろなスポーツができる	26.9	21.7	28.7	14.5	23.9
専門的な知識をもった指導者がいる	22.7	23.6	28.2	13.6	23.2
子どもと一緒に参加できる	16.6	17.3	19.4	12.2	17.0
スポーツ以外の活動(文化活動)もある	10.3	19.4	17.9	10.7	15.5
いろいろな世代と交流できる	16.4	13.9	18.9	7.0	15.0
多様なプログラムを提供してくれる	13.3	15.8	18.5	7.2	14.7

(あてはまるものすべてに○印)

(2) 払ってもよい会費

表8は総合型地域スポーツクラブが設立されたとき、どのくらいの年会費を支払ってよいかたずねたものである。全体では、「3,000円以上～5,000円未満」が26.3%と最も多く、次いで、「2,000円以上～3,000円未満」の19.7%、「5,000円以上～10,000円未満」の17.4%と続いている。この結果から、会費の設定としては「3,000円以上～5,000円未満」の間で設定することがよいと思われる。性別で比較すると、5,000円以上支払ってよいという人は、男性が26.6%、女性が16.0%であり、男性の方がスポーツに金を支払ってよいという積極的な意識を持っている。

加入意欲別に比べると、5,000円以上支払ってよいという人は、積極群が26.5%であるのに対し、消極群は9.5%であり、積極群の人ほどスポーツに金を払ってもよいという人が多い。

表8 総合型地域スポーツクラブへ払ってもよい年会費 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
10,000円以上	3.8	2.6	3.8	1.9	3.1
5,000円以上～10,000円未満	22.8	13.4	22.7	7.6	17.4
3,000円以上～5,000円未満	25.3	27.1	29.3	20.2	26.3
2,000円以上～3,000円未満	15.8	22.7	21.5	16.3	19.7
1,000円以上～2,000円未満	15.9	17.4	15.1	20.0	16.8
1,000円未満	14.6	15.1	7.0	29.9	14.9
無回答	1.8	1.7	0.6	3.9	1.8

P<0.001 P<0.001

(3) ボランティア・指導者としての参加希望

表9はボランティアや指導者としての参加希望を示したものである。全体では、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と答えている人は34.5%であり、クラブ加入意識に比べて低い。性別で比較すると、やや男性のほうに参加希望者が多い。

加入意欲別に比較すると、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と答えている人は積極群の48.5%に対して、消極群は8.0%であり、積極群の人ほどボランティアや指導者として積極的に参加する意識がみられる。

表9 総合型地域スポーツクラブへボランティア・指導者としての参加 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
参加したい	8.0	6.6	10.4	1.2	7.2
どちらかといえば参加したい	29.9	25.4	38.1	6.8	27.3
どちらかといえば参加したくない	37.8	40.1	37.4	42.6	39.1
参加したくない	24.1	26.1	13.1	48.8	25.3
無回答	0.2	1.8	1.0	0.6	1.1

P<0.05 P<0.001

(4) 開催してほしいスポーツ教室

表10は開催してほしいスポーツ教室についてあらわしたものである。全体では、開催してほしいスポーツ教室中で10%を越えているものをみると、「軽い体操」の21.6%、「ヨガ」の16.2%、「ストレッチ」の16.1%、「筋力トレーニング」の15.9%、「散歩・ウォーキング」の14.9%、「家庭医学教室」の12.9%、「栄養教室」の12.1%、「水泳」の10.5%があげられ、健康づくり系の運動が多い。性別でみると、男性では、「筋力トレーニング」の20.9%、「軽い体操」の17.1%、「散歩・ウォーキング」の16.1%、「水泳」の11.5%、「ハイキング」の10.5%、があげられる。一方、女性では、「軽い体操」の25.0%、「ヨガ」の23.3%、「ストレッチ」の20.0%、「栄養教室」の16.6%、「家庭医学教室」の15.7%、「散歩・ウォーキング」の14.9%、「筋力トレーニング」の11.8%、「バドミントン」の10.6%、「エアロビクス」の10.2%があげられる。

加入意欲別に比較すると、積極群の人では、「軽い体操」の21.6%、「ヨガ」の19.1%、「ストレッチ」の17.8%、「筋力トレーニング」の17.5%、「散歩・ウォーキング」の13.1%、「水泳」の13.0%、「家庭医学教室」の11.8%、「栄養教室」11.8%、「バドミントン」の10.1%があげられる。

一方、消極群の人では、「軽い体操」の22.1%、「散歩・ウォーキング」の18.6%、「家庭医学教室」の14.5%、「ストレッチ」の13.0%、「栄養教室」の12.6%、「筋力トレーニング」の11.6%、「ヨガ」の10.5%があげられる。

表10 開催してほしいスポーツ教室 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
軽い体操	17.1	25.0	21.6	22.1	21.6
ヨガ	6.7	23.3	19.1	10.5	16.2
ストレッチ	10.8	20.0	17.8	13.0	16.1
筋力トレーニング	20.9	11.8	17.5	11.6	15.7
散歩・ウォーキング	16.1	14.0	13.1	18.6	14.9
家庭医学教室	9.0	15.7	11.8	14.5	12.9
栄養教室	6.2	16.6	11.8	12.6	12.1
水泳	11.5	9.7	13.0	5.8	10.5
バドミントン	6.4	10.6	10.1	6.2	8.8
卓球	7.7	9.2	9.3	7.2	8.6
ハイキング	10.5	7.1	8.7	8.3	8.6
テニス・ソフトテニス	9.7	7.4	9.8	5.8	8.4
太極拳	7.4	8.6	9.5	5.0	8.1
ボーリング	7.1	6.5	7.0	6.4	6.7
エアロビクス	1.6	10.2	8.1	3.5	6.5
ダンス	1.3	9.4	7.4	2.9	6.0
ゴルフ	9.4	2.7	6.8	3.3	5.5
その他	65.2	33.6	51.7	38.8	45.7
無回答	3.6	3.8	1.4	8.1	3.7

(3つまで○印)

3. 国体

(1) 国体の認知度

表11は2017年に開催される愛媛国体が開催されることを知っているかをたずねたものである。全体では、知っている人は40.6%であり、あまり知られていない。性別で比較すると、男性の方がよく知っている。

加入意欲別では、積極群の人の方がよく知っている。

表11 国体の認知度 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
知っていた	46.7	36.1	44.6	33.1	40.6
知らなかった	53.0	63.8	55.3	66.5	59.2
無回答	0.3	0.1	0.1	0.4	0.2

P<0.001 P<0.001

(2) 強化種目

表12は愛媛国体に向けて選手を育成するために、今治市がどのような種目に力を入れたらよいかをたずねた

ものである。全体では、「陸上競技」が24.9%と最も多く、次いで、「硬式野球」の21.9%、「水泳」の16.9%、「ボート」の16.2%、「サッカー」の16.2%、「軟式野球」13.1%、「ソフトボール」12.8%の順である。今治市で行われる国体の種目は「ボート」「軟式野球」「バスケットボール」「自転車」「ソフトテニス」「アーチェリー」の計6種目であり、今後の啓蒙活動が必要であろう。性別で比較すると、男性では、「硬式野球」「ソフトボール」「サッカー」を指摘する人が多く、女性では、「バレーボール」を指摘する人が多い。

加入意欲別では差はみられない。

表12 強化希望種目 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
陸上競技	24.3	25.4	25.9	23.1	24.9
硬式野球	27.9	17.4	23.6	19.0	21.9
水泳	15.9	17.7	18.3	14.7	16.9
ボート	16.1	16.3	18.2	12.4	16.2
サッカー	20.4	13.1	17.4	14.0	16.2
バレーボール	9.7	18.9	16.3	12.6	15.0
軟式野球	15.3	11.5	13.9	12.0	13.1
ソフトボール	16.7	9.8	13.2	12.2	12.8
テニス	9.5	10.2	11.1	7.9	9.9
卓球	9.0	10.1	9.3	10.1	9.6
バスケットボール	7.4	10.6	9.3	9.3	9.2
柔道	9.2	8.3	8.4	9.3	8.7
剣道	7.6	8.5	8.2	7.9	8.1
バドミントン	4.6	9.4	7.9	6.4	7.4
自転車	7.7	7.0	7.6	6.8	7.3
ソフトテニス	5.9	7.4	7.3	5.8	6.7
アーチェリー	4.9	4.7	5.0	4.3	4.8
その他	11.3	11.9	10.8	13.2	11.7

(3つまで○印)

(3) 国体に向けて力を入れること

表13は愛媛国体に向けて力を入れることをたずねたものである。全体では、「スポーツ施設を充実させる」が52.8%と一番多く、次いで、「地域のスポーツ指導者を育成する」の34.2%、「小・中・高校の一貫指導を進める」の32.0%、「スポーツ教室やイベントを開催する」の23.5%、「社会人チーム・選手に対する支援を行う」の21.9%、「一流選手を招き教室を開く」の20.9%、「トップレベルの選手の強化事業を行う」の20.2%が続いている。スポーツ施設を充実させ、地域スポーツの指導者を養成し、スポーツ教室やイベントを開催し、トップレベ

ルの選手による教室や養成が国体のために必要となる。性別で比較すると、あまり差はみられない。

加入意欲別では、10%以上の差がみられた項目は、「スポーツ施設を充実させる」と「地域のスポーツ指導者を養成する」である。

表13 国体に向けて力を入れること (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
スポーツ施設を充実させる	53.2	52.5	58.3	43.0	52.8
地域のスポーツ指導者を育成する	35.6	33.1	37.9	27.1	34.2
小・中・高校の一貫指導をすすめる	37.3	28.0	34.9	26.7	32.0
スポーツ教室やイベントを開催する	21.3	25.0	26.8	17.4	23.5
社会人チーム・選手に対する支援を行う	21.0	22.6	23.5	18.6	21.9
一流選手を招き教室を開く	20.9	21.0	22.7	17.4	20.9
トップレベル選手の強化事業を行う	23.6	17.7	21.3	18.2	20.2
新聞や情報誌で国体の特集する	15.8	21.7	18.8	19.6	19.2
地域のスポーツクラブを育成する	20.0	16.6	20.9	12.6	18.0
市内のスポーツ指導者を部活動に派遣する	15.6	19.5	20.7	12.8	17.8
ボランティアを育成する	17.2	18.2	20.5	12.6	17.8
市外や県外との合同練習会を設ける	15.3	16.4	17.4	12.4	15.9
市内の小・中・高校の合同練習会を増やす	15.6	12.6	13.9	13.8	13.9
市内の子どもの大会を増やす	17.4	11.2	12.9	15.5	13.8
地域のスポーツクラブと子どもたちの連携を図る	11.2	11.4	12.4	9.3	11.3
種目毎に拠点施設を設ける	12.0	9.2	12.1	7.0	10.4
その他	8.7	9.4	8.4	10.1	9.1

(あてはまるものすべてに○印)

4. プロスポーツ

(1) あればいいプロスポーツ

表14はあればいいプロスポーツを示したものである。全体では、「野球」が30.2%と最も多く、次いで、「サッカー」の19.0%、「バレーボール」の14.3%の順である。性別で比較すると、差はみられない。

加入意欲別では、積極群の人の方がどの項目も多い傾向がみられるが、それほど差はみられない。

表14 あればよいプロスポーツ (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
野球	33.8	27.5	31.6	27.9	30.2
サッカー	19.4	18.7	19.8	16.9	19.0
バレーボール	10.2	16.8	14.5	12.8	14.0
バスケットボール	7.4	9.7	9.7	7.0	8.7
フットサル	4.4	5.0	5.7	2.9	4.8
その他	3.3	4.2	4.1	2.9	3.8
特に必要なし	38.8	41.8	36.2	48.8	40.5

(あてはまるものすべてに○印)

(2) 愛媛マンダリンパイレーツの観戦

表15は愛媛マンダリンパイレーツの試合を球場で観戦したことがあるかをたずねたものである。全体では、「行ったことがある」人は8.2%、「行ったことはないが、行ってみたい」人は48.6%と愛媛マンダリンパイレーツに興味を持っている人は多い。性別で比較すると、男性のほうが興味を持っている人が多い。

加入意欲別に比べると、積極群の人の方が興味を持っている。

表15 マンダリンパイレーツの観戦経験 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
行ったことがある	10.7	6.4	10.0	4.8	8.2
行ったことはないが、行ってみたい	53.3	45.0	55.6	35.7	48.6
行ってみたいとは思わない	36.0	48.5	34.3	59.5	43.1
無回答	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1

P<0.001 P<0.001

5. 体育・スポーツ施設

(1) 公共スポーツ施設の利用頻度

表16は過去1年間の間に公共スポーツ施設の利用頻度を示したものである。全体では、「週1回以上」利用した人は8.6%、「月に1~2回」利用した人は6.3%、「年に数回」利用した人は15.1%と、利用したことのある人は30.0%もいる一方、今まで公共スポーツ施設を利用したことのない人も46.0%も存在し、利用者を増加させる施策が必要である。性別で比較すると、差はみられない。

加入意欲別に比べると、過去1年間の間に利用したことのある人は、積極群36.7%、消極群16.8%と積極群の人の方がよく利用している。

表16 公共スポーツ施設の過去1年間の利用頻度 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
週1回以上	6.7	9.9	10.4	5.0	8.6
月に1~2回	7.2	5.5	8.3	2.5	6.3
年に数回	15.4	14.8	18.0	9.3	15.1
利用したことはあるが、過去1年間では利用していない	25.5	22.8	27.9	16.7	23.9
利用したことがない	44.7	47.0	35.2	66.5	46.0
無回答	0.3	0.0	0.2	0.0	0.1

N.S. P<0.001

(2) 公共スポーツ施設利用頻度増加のための施策

表17は公共スポーツ施設の利用頻度を増加させるための施策をたずねたものである。全体では、「スポーツ

情報をもっと発信する」が42.6%と最も多く。次いで、「スポーツ施設を整備する」の25.2%、「利用手続きを簡素化する」の17.8%、「イベントや教室を増やす」の16.9%、「施設数を増やす」の13.5%、「スポーツ施設の利用の手引きを作成する」の12.9%、「専門の指導者を配置する」の9.1%と続いている。公共スポーツ施設の一番の問題点はスポーツ情報を流していないことである。市や公民館の広報やホームページなどを作り、市民にスポーツ情報を流していくことが必要となろう。性別で比較すると、男性では、「スポーツ施設を整備する」が多く、女性では、「スポーツ施設をもっと発信する」が多い。

加入意欲別に比べると、積極群の人は、「スポーツ情報をもっと発信する」「スポーツ施設を整備する」「イベントや教室を増やす」が多く、消極群では、「利用手続きを簡素化する」が多い。

表17 公共スポーツ施設利用頻度増加のための施策（%）

項目	男	女	積極群	消極群	全体
スポーツ情報をもっと発信する	38.8	45.5	45.3	37.4	42.6
スポーツ施設を整備する	30.5	21.2	27.3	21.3	25.2
利用手続きを簡素化する	19.0	16.8	15.3	22.3	17.8
イベントや教室を増やす	14.1	18.9	20.1	10.7	16.9
施設数を増やす	13.1	13.7	14.9	11.0	13.5
スポーツ施設の利用の手引きを作成する	15.3	11.2	13.1	12.6	12.9
専門の指導者を配置する	7.6	10.3	9.7	8.1	9.1
スポーツ施設までの運行バスを配備する	4.8	11.2	8.5	8.1	8.4
利用時間を延長する	8.4	8.3	8.6	7.9	8.4
冷暖房をつける	5.6	7.2	6.2	7.2	6.5
職員の対応を改善する	6.4	4.7	5.1	6.0	5.4
夜間照明を完備する	5.7	2.7	3.4	5.2	4.0
その他	5.6	2.1	1.8	6.8	3.6
無回答	1.5	2.5	1.0	4.1	2.0

（2つまで○印）

（3）学校体育施設の利用頻度

表18は過去1年間の間に学校体育施設の利用頻度を示したものである。全体では、「週1回以上」利用した人は5.5%、「月に1～2回」利用した人は3.9%、「年に数回」利用した人は8.4%と利用したことのある人は17.8%しかいない。公共スポーツ施設に比べて利用率が低いといえる。また、学校体育施設を利用したことのない人は64.7%も存在し、身近な場所にある学校体育施設の利用頻度を上げることが今後の重要な課題である。性

別で比較すると、男性の方がわずかであるが利用頻度が高い。

加入意欲別に比べると、積極群の方に利用している人が多い。

表18 学校体育施設の過去1年間の利用頻度（%）

項目	男	女	積極群	消極群	全体
週1回以上	3.8	6.9	7.2	2.5	5.5
月に1～2回	5.9	2.5	5.1	1.9	3.9
年に数回	10.7	6.7	9.7	6.0	8.4
利用したことはあるが、過去1年間では利用していない	18.6	15.8	19.9	11.6	17.0
利用したことがない	60.8	67.6	57.8	77.8	64.8
無回答	0.2	0.5	0.3	0.2	0.4

P<0.001 P<0.001

（4）学校体育施設利用頻度増加のための施策

表19は学校体育施設の利用頻度を増加させるための施策をたずねたものである。全体では、「個人利用がしやすいようにする」の36.2%が最も多く。次いで、「スポーツ情報（利用方法・施設情報）を容易に知ることができる」の34.1%、「利用手続きを簡素化する」の25.5%、「様々な教室を開催する」の21.8%、「総合型地域スポーツクラブをつくる」の11.8%、「施設を使用している団体を紹介する」の11.0%、「利用時間を拡大する」の10.0%と続いている。これらの問題を解決する方法としては、校区レベルの総合型地域スポーツクラブを設立することが重要である。性別で比較すると、あまり差はみられない。

加入意欲別に比べると、積極群の人のほうに「総合型地域スポーツクラブを作る」が多い。

表19 学校体育施設利用頻度増加のための施策（%）

項目	男	女	積極群	消極群	全体
個人利用がしやすいようにする	36.5	36.1	36.0	36.8	36.2
スポーツ情報（利用方法・施設情報）を容易に知ることができるようにする	31.9	35.7	35.5	31.2	34.1
利用手続きを簡素化する	29.9	22.2	24.9	27.1	25.5
様々な教室を開催する	18.6	24.2	23.7	18.4	21.8
総合型地域スポーツクラブをつくる	10.8	12.5	14.6	6.6	11.8
施設を使用している団体を紹介する	8.9	12.6	13.8	5.6	11.0
利用時間を拡大する	11.7	8.8	10.0	10.1	10.0
特定のクラブの専有利用をやめる	8.9	6.0	6.5	8.7	7.2
夜間照明を完備する	6.2	3.4	4.5	5.0	4.6
その他	4.3	1.5	1.1	5.6	2.7
無回答	2.3	4.3	2.2	5.8	3.4

（2つまで○印）

6. スポーツ行政

(1) 整備してほしいスポーツ施設

表20は今後特に整備してほしいと思うスポーツ施設についてたずねたものである。全体では、「多目的広場」が26.3%と最も多く、次いで、「温水プール」の22.8%、「近所の広場や公園」の20.9%、「体育館」の15.3%、「トレーニング室」の13.6%の順になっている。いろいろなスポーツや運動の出来る広場や商業スポーツクラブにある温水プールが多い。性別で比較すると、女性の方に「温水プール」や「近所の公園や広場」が多い。

加入意欲別に比べると、積極群の人の方が「多目的広場」や「体育館」が多い。

表20 今後、整備してほしい施設 (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
多目的広場	27.3	25.6	28.3	22.5	26.3
温水プール	18.1	26.4	24.0	20.9	22.8
近所の広場や公園	17.6	23.4	20.3	21.9	20.9
体育館	14.8	15.7	17.9	10.5	15.3
トレーニング室	13.6	13.5	16.5	7.9	13.6
ハイキングコース	10.0	9.6	10.2	9.1	9.8
陸上競技場	8.2	6.0	7.3	6.2	7.0
野球場	9.4	4.7	7.1	5.8	6.7
サイクリングコース	6.7	5.4	6.0	6.0	6.0
テニスコート	5.9	5.0	6.0	4.3	5.4
サッカー競技場	6.9	4.3	5.8	4.1	5.4
武道場	4.8	3.4	4.3	3.5	4.0
フットサル場	5.3	2.9	4.4	2.9	3.9
ソフトボール場	3.9	1.0	2.6	1.7	2.2
その他	2.1	2.1	2.3	1.9	2.1
特にない	11.3	11.5	6.4	21.3	11.4
無回答	0.8	1.3	1.2	0.8	1.1

(2つまで○印)

(2) スポーツ行政に望むこと

表21は今治市のスポーツ行政に望むことについて示したものである。全体では、「子どもの遊び場をつくる」の26.8%が最も多く、次いで、「スポーツの総合施設（総合公園）を整備する」の25.5%、「スポーツ施設の充実を図る」の19.5%、「健康・体力に関するアドバイスをする」の19.5%、「今治市のスポーツ施設地図を作り、配布する」の16.8%、「学校体育を活性化するための取り組みをする」の15.2%、「スポーツ指導者の育成を図る」の15.0%の順になっている。全般的にスポーツ施設に対

する要望が多く、愛媛国体に連動してスポーツ施設を整備することが必要であろう。性別で比較すると、男性では、「スポーツ施設の総合施設（総合公園）を整備する」と「スポーツ施設の充実を図る」が多い。一方、女性では、「子どもの遊び場を作る」と「スポーツ情報（イベント・教室など）を提供する」が多い。

加入意欲別に比べると、積極群では、「スポーツ施設の充実を図る」「スポーツ情報（イベント・教室など）を提供する」「スポーツ教室を開催する」が多い。

表21 今治市のスポーツ行政に望むこと (%)

項目	男	女	積極群	消極群	全体
子どもの遊びの場をつくる	23.3	29.3	23.4	33.3	26.8
スポーツの総合施設（総合公園）を整備する	29.4	22.6	26.5	24.0	25.5
スポーツ施設の充実を図る	27.9	21.2	27.0	18.4	24.1
健康・体力に関するアドバイスをする	19.4	19.6	19.4	19.6	19.5
スポーツ情報（イベント・教室など）を提供する	15.9	21.6	21.6	14.5	19.2
今治市のスポーツ施設地図を作り、配布する	17.7	16.1	17.1	16.1	16.8
学校体育を活性化するための取り組みをする	15.4	15.1	15.7	14.7	15.2
スポーツ指導者の育成を図る	15.3	14.8	15.9	13.4	15.0
地域特性・環境を活かしたイベントをする	15.1	13.7	15.6	11.6	14.3
スポーツ教室を開催する	9.5	13.6	14.1	7.6	11.9
全国レベルのスポーツ選手の育成を図る	12.2	10.7	11.0	11.8	11.3
トップレベルの選手や指導者による実技指導や講演会を開催する	12.5	10.3	12.9	7.9	11.2
スポーツ団体（スポーツクラブ）への支援を充実する	10.3	9.1	11.4	6.4	9.6
スポーツ施設までの運行バスを配備する	4.8	11.8	9.0	8.5	8.8
その他	21.7	15.1	16.3	21.1	17.9
無回答	1.1	2.6	1.7	2.5	2.0

(3つまで○印)

以上の調査から今治市におけるスポーツ振興計画を作成した。

IV. スポーツ振興計画

1. 理念

- (1) スポーツを通じて今治市民の健やかな心身づくりに貢献する。
- (2) スポーツを通じて楽しく暮らしやすい地域づくりに貢献する。
- (3) スポーツを通じて今治市の良さを広く世界にアピールする。

2. 具体的目標

- (1) 市長直属のスポーツ振興部を創設する。

- (2) 今治市営中央体育館に広域スポーツクラブを創設する。
- (3) 全ての中学校校区に総合型地域スポーツクラブを設立する。
- (4) スポーツ施設の整備をする。

3. 実現のための方策

(1) 各種団体との連携

- 学校教育・医療・福祉・食・プロスポーツ・企業・観光団体との連携をする。
- 愛媛県と連携する。

(2) ジュニアスポーツ

- より多くの子どもたちがスポーツを楽しむ場を提供する。
- 小学校に運動の基礎となるコーディネーショントレーニングを行う。
- 広域スポーツクラブが学校体育や運動部活動に指導者を派遣する。

(3) 生涯スポーツ

- 広域スポーツクラブが専任のクラブマネジャーを雇用する。
- 広域スポーツクラブが総合型地域スポーツクラブを設立・育成する。
- 広域スポーツクラブがスポーツ指導者の養成をする。
- 愛媛大学総合型地域スポーツクラブとの連携をはかる。
- 今治市スポーツ指導者認定制度を作る。

(4) 競技スポーツ

- 今治市スポーツクラブが中心になって一貫指導体制の構築する。
- 小・中・高校のスポーツクラブ・部活動に外部指導者を派遣する。
- 指導者同士のコンセプトを一致させる指導者連絡会議を作る。
- 国体に向けて高校に県内から選手を集める。
- 専門職（スポーツドクター・トレーナー・マッサージ師など）を配置する。

- 愛媛県社会人スポーツ推進協議会との連携する。

(5) 体育・スポーツ施設

- スポーツ施設整備計画を作る。
- 総合運動公園・国体関連施設の整備をする。
- 体育・スポーツ施設地図を作成する。
- スポーツ施設情報を市民に流す。

(6) プロスポーツ

- 愛媛FCや愛媛マンダリンパイレーツとの連携をする。
- プロスポーツを作る。

(7) 今治市スポーツ振興計画実行評価委員会の設立

- マスタープランが実現できているかを評価する。

参考文献

- 1) 愛媛県（2003）「スポーツ振興基本計画計画」
- 2) 堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭（2008）「スポーツ振興計画作成のための調査－愛媛県西予市の場合－」愛媛大学教育学部紀要 第55巻 pp.129－135
- 3) 内閣府（2004）「体力・スポーツに関する世論調査」